

ムギ類黒節病の発病および保菌粒率軽減対策

河田和利・森 充隆

香川県農業試験場研究報告 第 67 号 (2017 年 3 月) 9-15

1. ハダカムギ 3 品種を供試して黒節病の発生について調査した結果、品種間差が認められ、これは耐病性の差異を示すものと考えられた。
2. ムギ類黒節病の発生に対する種子消毒と本田防除の効果を調べた結果、金属銀水和剤による種子消毒は、一定の発病抑制効果はあるものの、塩基性硫酸銅水和剤の本田散布を組み合わせることにより防除価が高まった。また、金属銀水和剤の種子消毒は、湿粉衣に比べ浸漬処理の効果が高かった。
3. 保菌粒率と発病および雨よけ栽培の効果を調査した結果、成熟期前の発病程度と保菌粒率に関連性は低かった。また、施設内での雨よけ栽培は保菌粒率の低下に効果が高かった。

キーワード：ムギ類黒節病，種子消毒，薬剤散布，保菌粒率